

J-クレジット制度管理者御中

実績確認概要書

令和元年 11 月 7 日

審査機関名 ソロテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	A 重油ボイラから都市ガスボイラへの更新及び工業炉の更新プロジェクト
承認番号	JCDM-PJKC1538
排出削減事業者名	松菱金属工業株式会社
排出削減共同実施事業者名	丸紅株式会社
事業実施場所	本社第一工場 (住所) 東京都羽村市明神台 2-5-1
事業の概要	【方法論 001 ボイラー更新】 A 重油ボイラ 3 基を都市ガスボイラ 3 基へ更新する。高効率の都市ガスボイラへ更新し、単位発熱量あたりの CO2 排出量が少ない都市ガスへ燃料転換することで、CO2 排出量を削減する。 【方法論 003 工業炉の更新】 工業炉を更新し、燃料を灯油及びLPGから都市ガスに転換する。高効率の工業炉へ更新し、単位発熱量あたりの CO2 排出量が少ない都市ガスへ燃料転換することで、CO2 排出量を削減する。
排出削減量の計画	2011 年度 273tCO2/年 2012 年度 1,261tCO2/年 2013 年度 1,756tCO2/年 2014 年度 1,756tCO2/年 2015 年度 1,763tCO2/年 2016 年度 1,763tCO2/年 2017 年度 1,756tCO2/年 2018 年度 1,756tCO2/年

	2019年度 664tCO ₂ /年 (事業実施期間合計 12,748tCO ₂)
認証期間	開始日 2011年8月17日 終了予定日 2019年8月16日 ※J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は2019年8月16日となっている。
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新 方法論番号 003 工業炉の更新

2. 本実績確認の対象期間

2013年4月1日～2019年7月31日（第2回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績確認期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	7,541 tCO ₂ (2013年4月1日～2019年7月31日)
-------	---

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	審査手続き
排出削減量が承認排出削減計画に従って実施した結果生じていること。	1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないため該当しない。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 都市ガスの購買伝票及び工業炉における生産記録、事業者へのヒアリング及び現地確認により、導入設備は実績報告期間において継続的に稼働していたことを確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	1) モニタリング方法の確認 都市ガスの購買伝票及び工業炉における生産記録、事業者へのヒアリング及び現地確認により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、都市ガス使用量、都市ガスの単

	<p>位発熱量、A 重油、LPG、灯油の単位発熱量あたりの CO2 排出係数等のモニタリングが実施されていることを確認した。</p> <p>但し、工業炉においては事業実施後に都市ガスを使用する工業炉が増設されたため、承認された削減事業計画における範囲の工業炉のみで使用されている都市ガス使用量を個別の都市ガスメータによってモニタリングされたデータから差し引いて、適切に計算されていることを確認した。</p> <p>2) 活動量の正確性</p> <p>都市ガス使用量の請求書及び個別メータのモニタリングデータの確認、工業炉における生産記録の確認により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、使用量等の記録・保存が適切になされており、活動量が正確に集計されていることを確認した。</p> <p>3) 単位発熱量、排出係数等の係数の確認</p> <p>J-クレジット制度のモニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.3.4により、排出削減量の算定式及び使用されている単位発熱量、排出係数等は方法論及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認</p> <p>排出削減量の算定結果を都市ガス使用量の請求書と個別メータのモニタリングデータ、集計表との突合、工業炉における生産記録、さらに計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認した。</p>
<p>算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと</p>	<p>今回の実績確認対象期間は 2013 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2019 年 8 月 16 日となっているため、当該算定結果は適切であることを確認した。</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

本プロジェクトでは排出削減事業実施後に、ガス供給会社からボイラーと工業炉に都市ガスが供給され、それぞれ検針用流量計により都市ガス使用量がモニタリングされていたが、2014 年 9 月に工業炉が増設されたことから、個々の工業炉における都市ガス使用量を

モニタリングしている都市ガス流量計により対象外の工業炉における都市ガス使用量を、検針用流量計の値から控除する方法に変更された。この方法はバウンダリー外の設備で使用される都市ガス使用量を適切に把握し、排出削減量が適切に計算されるための措置として適切である。

よって本実績確認期間の実績確認の結果、承認排出削減事業計画からの重要な変更点に当たらないことを確認した。

6. 特記事項

本実績確認期間における省エネルギー量は、

【ボイラーの更新】原油換算-107.4 kL、熱量換算-4,164.5 GJ

【工業炉の更新】原油換算 455.9kL、熱量換算で 17,670.1GJ であることを確認した。

ボイラーの更新について、省エネルギー量がマイナスの値となっている。これは、事業実施前後のボイラー効率に関して、低位発熱量ベースでの効率比較では高効率化されているものの、排出削減量の計算に用いる高位発熱量ベースでの効率比較では事業実施後ボイラーの効率値が事業実施前ボイラー効率よりも低くなっていることに起因するものである。

以 上